

日本は世界第二の「森の国」

—路網整備で、補助金依存型林業から自立型林業へ—

林 明夫

- (1) 日本は国土の約7割にあたる2500haが森林で、国土面積と森林の比率ではフィンランドに次ぐ「世界第2位の森の国」であるようだ。
- (2) このこと、つまり「日本は世界第2位の森の国」であることを、日本国民にもっともっと知らせた方がよい。日本国民は、「日本は森の国」であることをもっと自覚し、「森の国」の国民であることにもっと誇りを持ち、「森の国」を守ることは国民としての責任と考えた方がよい。
- (3) 木は、炭酸ガスを吸い酸素を排出する。CO₂の排出権の観点からも、森林を地球温暖化対策上の日本最大の資産として大切に守ることを考えた方がよい。
- (4) 日本の林業の現状はというと、国内総生産(名目)は3576億円、これに対して投下された国の林業予算は3947億円と、林業は生産額よりも投入された税金の方が多いう補助金依存型となっている。
- (5) 林業の低生産性の原因は、林道は作ったが、効率的な作業システムに対応した細部路網(作業道や作業路)の整備が極端に遅れていることにある。路網は、キャタピラのある車両が走れる舗装なしの幅2mのものなら、1m2000円で20°までの緩い傾斜地に、また、ワイヤーを使う架線でも1m2万円で45°までの急な傾斜地に整備できる。非常に安価な路網整備予算で計画的に行い、これに、林地の団地化を加速させる仕組みと森林計画のプロの育成、さらに、流通の合理化(製材工場の大規模化によるコスト削減や無駄なく木を使う新加工技術の導入)などを組み合わせれば、自立型林業へ転換できる。
- (6) 路網整備で、現在2割の木材の自給率を上昇させ、世界的な木材需要急増による木材の逼迫に備えることもできる。有益な公共事業として、建設業従事者の雇用吸収にも直結する。
- (7) 日本は世界第2位の「森の国」であることをかみしめたい。

* 社団法人 経済同友会 規制改革委員会 農林業分科会
第1回委員会 2007年8月22日(木)13:00～14:30
日本工業倶楽部 4F 第4会議室
「路網整備から始める林業改革プログラム(案)」
講師 米田雅子 慶應義塾大学理工学部教授